

研究主題	子どもの「やってみたい」があふれ 未来につながる幼児教育
研究の重点	幼児教育における今日的課題に応じた保育実践の充実 ～長時間保育における幼児期にふさわしい生活～
研究の視点	一人一人が1日を通して充実した園生活を送るために

～長時間保育における遊びの充実とは～

今年度、職員間で3回の事例検討を重ね「長時間保育における“遊びの充実”“思いを見取る”とは何か」について考え、事例検討、研究を進める過程で新たな気づき、仮説が見えてきました。

【研究を進める過程で見えてきた新たな仮説】

長時間における幼児期にふさわしい生活とは
『**やってみたいを実現する、じっくりと遊びを楽しむこと**』と
『**安心感をもって自分のペースで過ごすこと**』が
どちらも保障され、充実することなのではないか

認定こども園では、子どもの「養護(生命の保持と情緒の安定)」と「教育(心身の発達を促す活動)」を切り離さず、一体的に展開しています。長時間保育における『それぞれの子どものそれぞれの時間における“思い”と“遊びの充実”を捉えた関わり』について、事例をもとに理解を深めていきました。

5歳児実践事例『らいおん寿司屋ごっこ』

「やってみたい」の種を逃さない、瞬間を見取る援助



① きっかけ・興味の広がり

ある児が廃材カゴから
トレーを見つける
↓
お寿司の持ち帰り容器に見
立てる
↓
すぐに保育者がティッシュや
画用紙の切れ端を用意し寿
司づくりが始まる

② 思いの受けとめと発信

すぐに降園時間となったため「明
日も続きやったらどう？」と投げ
かける
↓
「持って帰って遊びたい！」と発
信あり
↓
子どもの思いに寄り添い関わる

③ 遊びの継続

家に寿司を持ち帰る
前に「みんなが遊びの
続きをできるように」と
もうひとつトレーをもっ
てきてくれる
↓
その場にいた他の児
が**遊びを続けられた**



『あの寿司屋』を再現したい！

翌日、部屋で寿司を見つけた子どもたちで小さなカウンター寿司屋がスタートしました。→数名でごっこ遊びをする様子を見て、子どもから出てきた遊びの中で、**友達と共通の目的をもって遊ぶ子どもの育ちを支える**ために、遊びの援助をしていきました。

「思いをもって遊ぶ姿」「目的を実現したい姿」

叶えるために…

一方でLaQ、折り紙で
じっくり継続的に遊ぶグ
ループもいる



全員が同時に
同じ遊びに興味をもつ
わけではない

キーワードは「あの寿司屋」



イメージを実現したい思いを支える



いくら、コーンマヨ、ラーメンも、、、
食べたことのあるものぜんぶつくりたい！



サーモンがすき！

いつも
ポテトとか
ラーメンも
たべるよ！

お茶もアイスも
あるよね！



LaQでも寿司つくろう！



LaQ折り紙
チームの姿
思い



子どものアイデアをすぐに形にするために具材は画用紙、LaQ、折り紙など、子どもが扱いやすいもの、今興味のあるものなどで自由につくっていけることを大切にしていきました。



「やってみたい」がすぐにできる喜びが次の「やってみたい」につながる



店員さんに必要なのは「あの」帽子！

友達の真似して
つくってみよう！

帽子があれば
店員になれる！

考えたりつくったりして
イメージを形にしたい！



帽子つくって
店員やりたい！



寿司屋と言えば
あの帽子だよね！

スシローはこんなマーク！

なんだか面白そうな雰囲気...
私も帽子つくってみようかな



店員帽を被って店番をしている友達を見て、LaQや折り紙をしていた子どもが遊びに興味をもつ様子に気付きました。「雰囲気を楽しみながら参加したい」「自分たちで考えてイメージを形にしたい」という一人一人の遊びへの思いに寄り添いながらそれぞれのペースで遊びを楽しめるよう支えていきました。



簡単につくれるアイテムを通して遊びが広がる 「自分も店員の一人だ！」という気持ちが生まれるきっかけとなる



席にあるものと言えば「あの」タッチパネル！

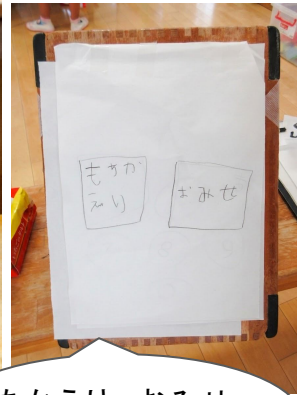
会計レジもつくろう！



注文はタッチパネルだよ！



もちかえりorおみせ
どっちでたべる？



LaQ折り紙
チームの姿
思い

予約表もいるよ



遊びを支える上で固定概念はもたず「今、子どもたちが想像しているお店って
どんなものなんだろう？」と一緒に考えながら子どものイメージを形にしてい
きました。



「楽しそう」が伝染する空間の中で
それぞれが思いをもって遊びを進める



なんかおもしろそう～



開発チームが試行錯誤した「あの」ビックラポン！



まずはこれで作ってみよう



できた！！



玉が途中で落ちちゃうなあ...

うまく転がらない...



寿司を食べるとゲームができるという魅力的なシステムを、体験したことのある子どもが他
児や保育者に伝え、遊びが始まりました。次々とアイデアを出す子どもたちの様子を見て保
育者が「開発チーム」と呼ぶと、更に子どもの遊びへの意欲が高まっていきました。どうやっ
たらケースが下まで転がるか、毎日試行錯誤しながら取り組む子どもたちを支えました。

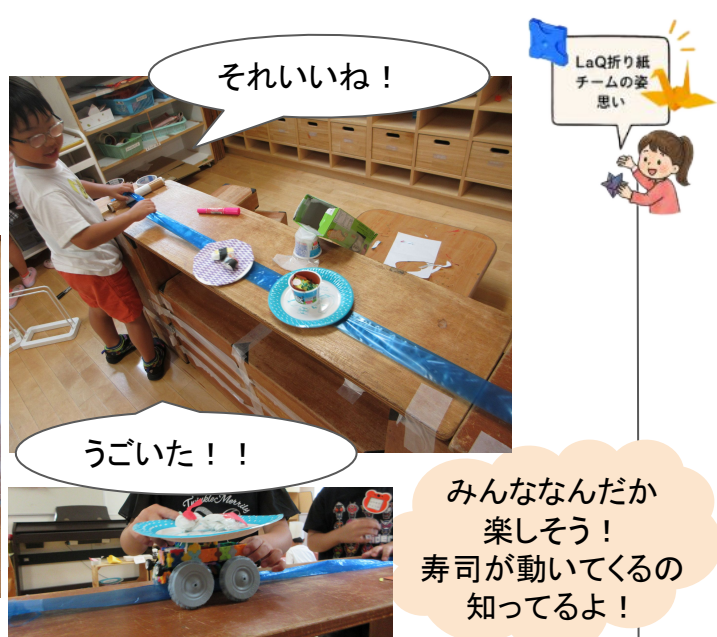
なかなか成功しないもどかしさ、子どもが感じている難しさに共感しながら、
先回りしない言葉掛け、子どもが葛藤している過程を大切にする援助を行いました。



考えを出し合いながら工夫、試行錯誤して遊ぶ
失敗しても繰り返しじっくりと取り組む力が育っていく

ビックラポン
やりたい！
中身の景品を
折り紙でつくるね！





細かい動きや、プラレールが皿を乗せて寿司を運ぶところまで「あの寿司レーン」のイメージを思い描き、友達と伝え合いながら形にしていきました。子どもたちが「自分で考えて試してみる」経験ができるよう、「それってどんなイメージ」などと必要に応じてヒントとなる声かけをしながら進めていきました。

友達の考えやイメージを「分かりたい」「知りたい」と動く 思いを実現させるための方法を探る

【研究を進める過程で見えてきた新たな仮説】
長時間保育における幼児期にふさわしい生活とは『やってみたいを実現する、じっくりと遊びを楽しむこと』と『安心感をもって自分のペースで過ごすこと』がどちらも保障され、充実することなのではないか

考察

“それぞれの子どもの「思い」と「遊びの充実」を捉えた関わり、
「その時間の思い」を逃さない保育者の捉え方”
が大切だという気付きを得た

「遊びの充実」とは？一人一人の思い、遊びを捉える

個々の遊びがバラバラに見える



それぞれの面白いと感じるポイント、タイミングは違う。興味は違っていても「面白そう」「楽しそう」で遊びがつながっていく

目的が見つからず遊べていなさそう？



遊びを溜め込む時間かもしれない。「それぞれの時間でそれぞれの子どもがもつ思い」に寄り添う。

1日の中での遊びの充実



「思いをもって遊ぶ時間」「安心して自分のペースで過ごせる時間」どちらも「遊びの充実」

「子どもの思いがどこにあるのか」を逃さない保育者の捉え方が大切

●一日（長時間保育）の中で、子どもは自らの思いをもってじっくりと遊び込み、時にはホッと一息つきながら過ごしています。いずれの時間における経験も等しく十分に保障されるべきであるという視点をもち、子どもの思いや日々の姿を丁寧に見取っていきたいと考えます。



にじいろのよさを生かした関わりの視点



●子どもの年齢に関係なく、一人一人の思いの在り方に気付く職員の視野の広さが自園の強みであると考えます。朝、夕方の異年齢活動時間には、クラス担当以外の職員でも「こんなことに夢中になってたよ！」「こんな瞬間（姿）があったよ！」と気づき、子どもの姿を職員間で共有することを大切にしています。遊びや活動をどう展開するかという援助だけでなく、にじいろのよさを生かし「それぞれの時間でそれぞれの子どもがもつ思い」に寄り添い、姿を見取った保育、教育を目指していきたいと思います。

